

九州作業療法学会 in 沖縄 2026

学会関連自主企画

作業療法スタイルアート作品の現在

たん かん 淡・緩 アート展

限りあるもの、その豊かさについて。



会場：那覇市文化芸術劇場なはーと 2階ロビー



作業療法スタイルアート研究会

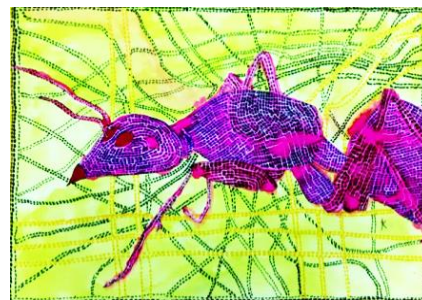
2026

本日は、九州作業療法学会 in 沖縄の会場、「那覇文化芸術劇場なは一と」にご来場いただきころより感謝申し上げます。本学会に参加者の作業療法士にみなさまにより、充実した大会になりますよう願うと同時に、それ以上に、当劇場近隣の“オリオンビール関連の各種タイプのお店”での有意義な交流を楽しんでいただきますことを地元の作業療法士を代表してご期待申し上げる次第です。

さて、**作業療法スタイルアート研究会**では、盛会でした宮崎学会 2025 での次期学会長挨拶のプログラムにおいて、下里綱本学会長が予告した“アートの展示にご期待を”との無茶ぶりに対して〈9・10の選択・ジバラカクゴ〉で応えることに致しました。それが《限りあるもの、その豊かさについて。》と題する「作業療法スタイルアート作品の現在 淡・緩アート展」と作業療法スタイルアート研究会を中心に編集・出版した関連資料等の展示と販売などの自主企画です。

つきましては、同会場のカフェで美味しいコーヒーもお楽しみいただきながら、展示会や関連資料を通じた交流の機会となればと期待し、ご案内申し上げます次第です。

作品展は、そのほとんどがコロナ禍以降に制作された作業療法スタイルアート作品です。掲載の作品は、2024 年開催した「第1回 淡・緩アート作品展」（沖縄県立美術館）からの選抜作品と、研究会メンバーが関与する現在進行形の造形表現活動及び応募の作品で構成されています。



どのようにして、漫然とした作業活動を手放すことができるのでしょうか。現在の制度や構造においては難しい問題です。まずは「既成材の消費依存」を放棄し、「既成材にひと手間加え、自らも直接かわる」ことで、この問題を解決することができます。対象者の物語を聞き出せるような「ぬり絵の下図（したえ）」を描いてみることをお勧めします。

簡便な画材の提供だけ（コピーのぬり絵の提供など・こうすればこうなるという考え方）ではない、予見不可能な〈ぬり絵アート〉を端緒とする「淡・緩アート」は、臨床現場の作業療法に新たな風を送り続けています。



展示会は、7施設から出展された24点の作品で構成されています。

2026年7月4日

作業療法スタイルアート研究会